

5 地の拠点活動を受け入れた地域の人々、自治体の意見

I 地(知)の拠点整備事業体験学習の評価アンケート

アンケートの概要

1. 広島大学地(知)の拠点整備事業中山間地域・島しょ部対策領域では、広島県内の7市町9地域と連携して地域体験学習(フィールドワーク)やフォーラムを実施したが、関係者の評価を聞き今後の改善につなげるため、地域・市町へのアンケート調査を行うとともに、地(知)の拠点円卓フォーラムにおいても地域・市町から多くの意見や助言を聴いた。

2. 調査対象とした広島大学地(知)の拠点整備事業連携9地域・市町は、安芸太田町・井仁地域、呉市・豊町大長地域、大崎上島町・金原農園・シトラスかみじま、同町・大崎内浦漁業協同組合・食文化海藻塾、世羅町・農事組合法人世羅幸水農園、同町・農事組合法人世羅大豊農園、三次市・道の駅ゆめランド布野(株式会社布野特産センター)・大前農園、東広島市・農事組合法人ファーム・おだ、広島市・いいね太田川隊・太田川漁業協同組合である。

3. 今回の地(知)の拠点整備事業地域体験学習のアンケートは、本年度に実施した活動の評価、地域連携の評価、次年度体験学習への意向、地域と大学の今後の連携に関する16項目について調査を行った。

4. また、地(知)の拠点円卓フォーラムでは、代表3地域から地域体験学習(フィールドワーク)や地域連携などに関する総合的な評価を聴くとともに、連携地域・連携市町・県の中から19名の方には、①地域の学生受入に対する意見、②中山間地域・島しょ部領域対策の活動に対する評価、③地域活性化に向けて広島大学にどのような役割を期待するか、の3点に絞って意見を伺った。

5. アンケートは、9地域12名、5市町7名から回答を得、地域・市町別に集計した。また、主な質問項目については、「良かったところ」、「改善が必要なところ」という記述欄などを設け、定性的な意見も聴いた。

6. なお、アンケートの調査対象数が少ないため集計値は概略の傾向として捉え、できるかぎり定性的な記述(意見)と併せた分析を行った。

事前準備に対する評価

7. 大学の事前打ち合わせの内容や情報、実施方法については、市町、地域ともに「良い」「やや良い」という回答が多く、おおむね良好な評価であった(図1)。

今後は、改善意見にもあるように、より一層の意思疎通、より早い段階での打ち合わせの充実、体験学習・フィールドワークの多様な検討を地域・市町の皆様と行っていきたいと考えている。

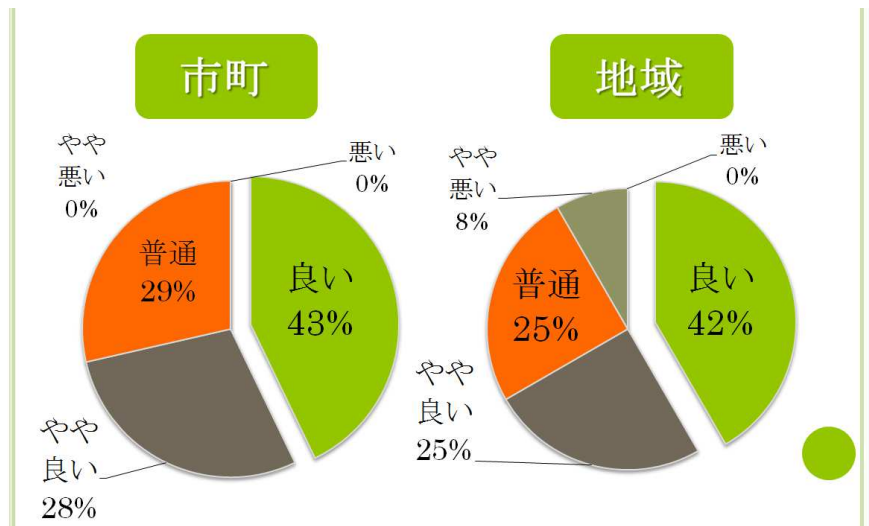


図1大学の事前打ち合わせの内容や情報、実施方法に関する評価

体験学習の実施時期

8. 体験学習の実施時期(6月)については、おおむね良好な評価と捉えられるものの「良い～やや悪い」までの回答があった。地域、市町、体験学習内容などについて多様な検討が必要と考えられる(図2)。今後は、改善点で指摘されたようにフィールドワークにおける雨天の対応、体験学習の内容、作物・品目・気候などを考慮したより適切な実施時期を地域や市町の皆様と検討することが求められる。

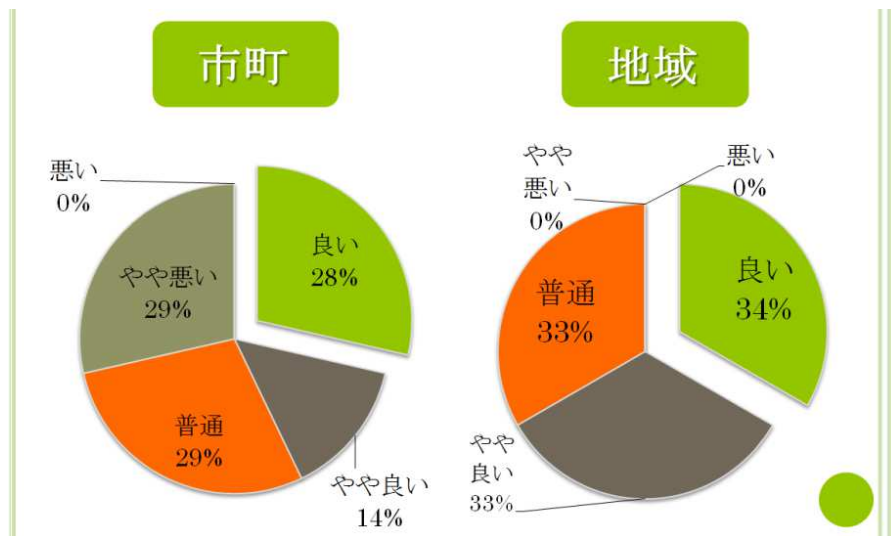


図2 体験学習の実施時期に関する評価

授業実施地域の業務負担

9. 授業実施に要する貴地域の業務量については、「普通」という評価が多く、一定の業務量はあるものの、想定範囲と捉えられていたのではないかと思われる(図5)。また、もっと長時間・多人数を希望する地域があったことから、地域の皆様と相談をしながら円滑な体験学習に努める必要がある。

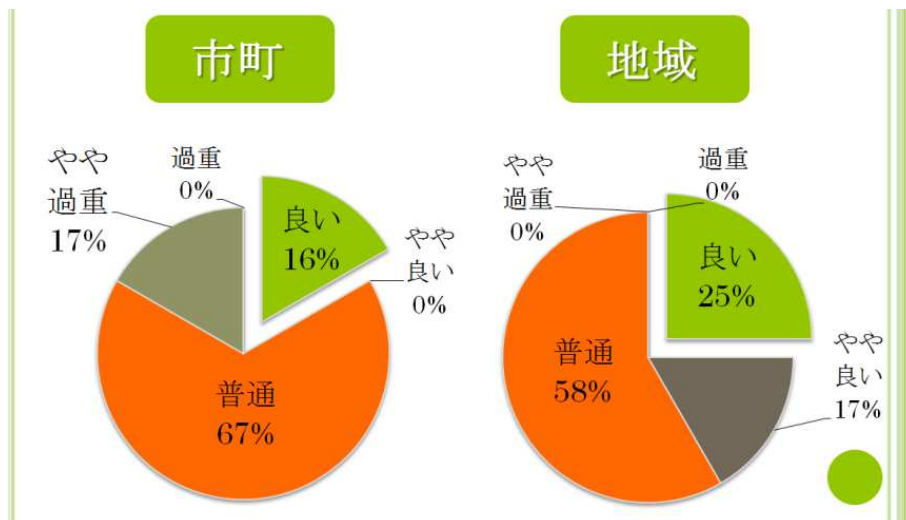


図3 授業実施に要する貴地域の業務量に関する評価

体験学習の受入れ人数

10. 今回の1年生の体験学習の参加学生数については、今年程度で良いが大層を占めたことから、今後も10名程度の班構成での体験学習を進めていくことが必要であると思われる(図9)。

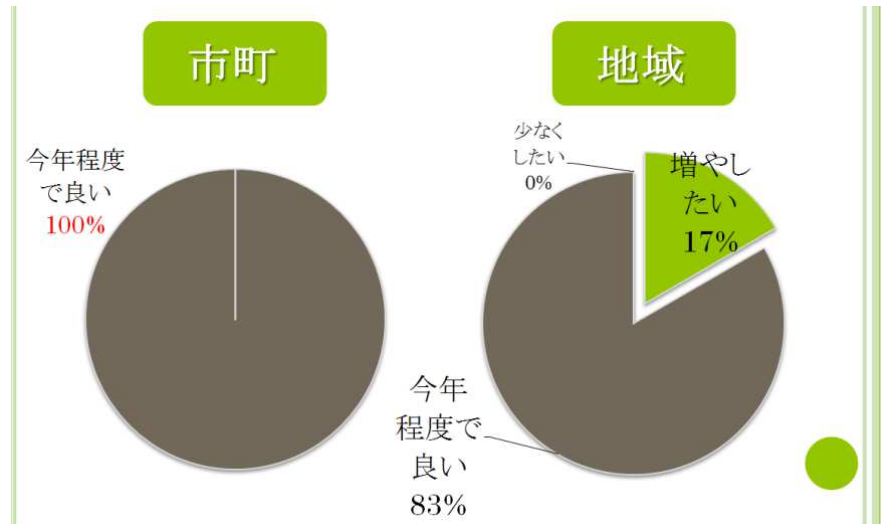


図4 今回の1年生の体験学習の参加学生数について

体験学習の実地内容について

11. 今回の体験学習の内容については、特に地域からもっと別の体験をさせたいという意見が多くみられた(図10)。どのような体験学習を計画的に組み込んでいくか、地域の皆様と検討を進めていきたいと考えている。

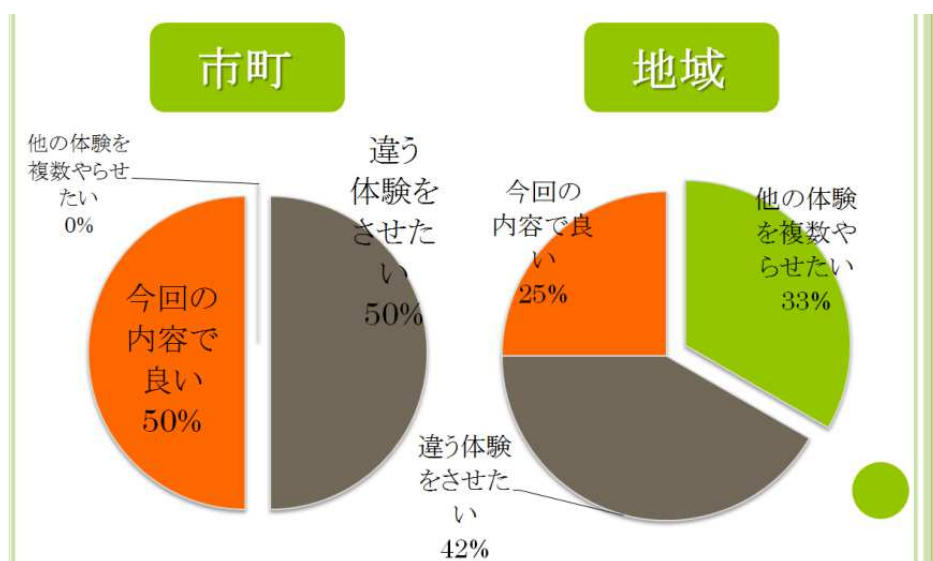


図5 今回の体験学習の内容について

体験学習の実施時間について

12. 一回の体験学習時間については、定性的な意見として「長くする」要望が多く出されていたが、数値的には本年度程度で良いという意見が同数程度という結果であった(図11)。



図6 一回の体験学習時間について

受入れ地域からみた学生の印象

13. 授業を受けた学生の反応や態度については、「良い～やや良い」と良好な評価を得た(図3)。今後は、さらに学生の地域への事前学習を深めるなどで、地域学習への多様な視点と興味が増す情報提供が必要であると思われる。

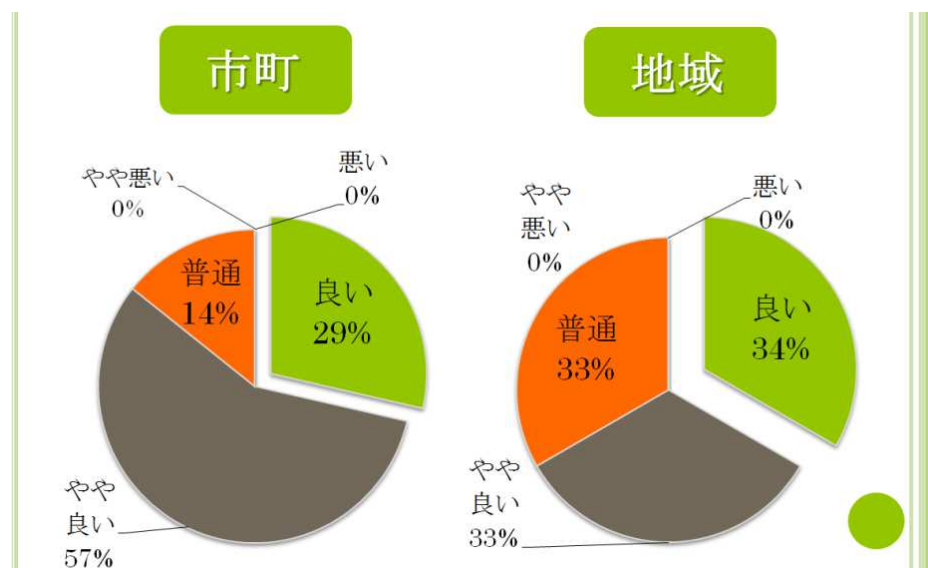


図7 授業を受けた学生の反応や態度に関する評価

受入れ地域から見た体験学習後の学生の意識変化

14. 授業を受けた学生の貴地域への理解や関心は高まったと思うかの質問に対しては、「やや高まった」という回答が多かった(図4)。さらに評価を高めるためには、地域に対する学生への事前・事後の情報提供の一層の充実を行っていかねばならないと思われる。

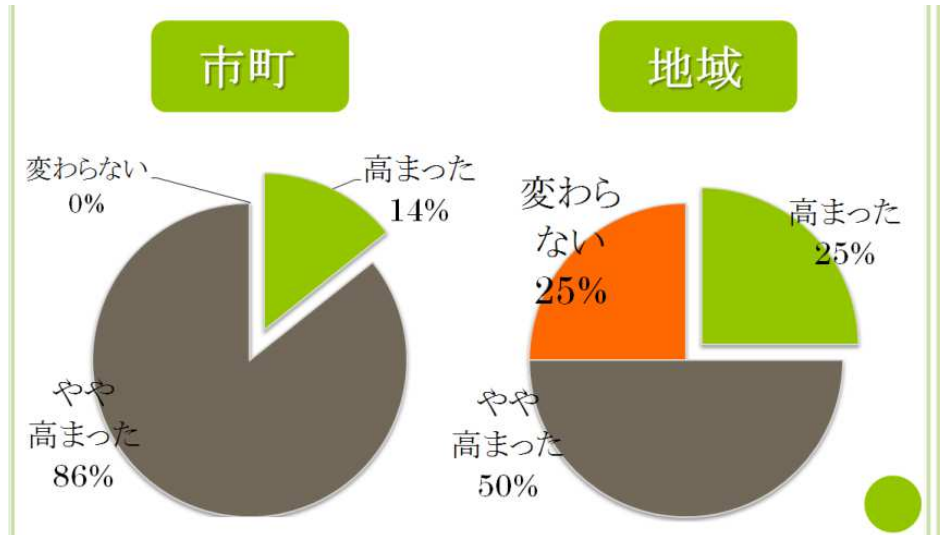


図8 授業を受けた学生の貴地域への理解や関心の高まりに関する評価

体験学習における地域・市町・大学等の連携

15. 市町からは良いという回答が多くみられたが、地域側は市町ほどの評価をしていないので、もう少し関係を強化していかねばならない(図7)。地域からの改善意見にあるように、大学、市町、地域で体験学習に関する一層の意思疎通ができるよう常日頃の連携も含めて強化していかねばならないと考えられる。

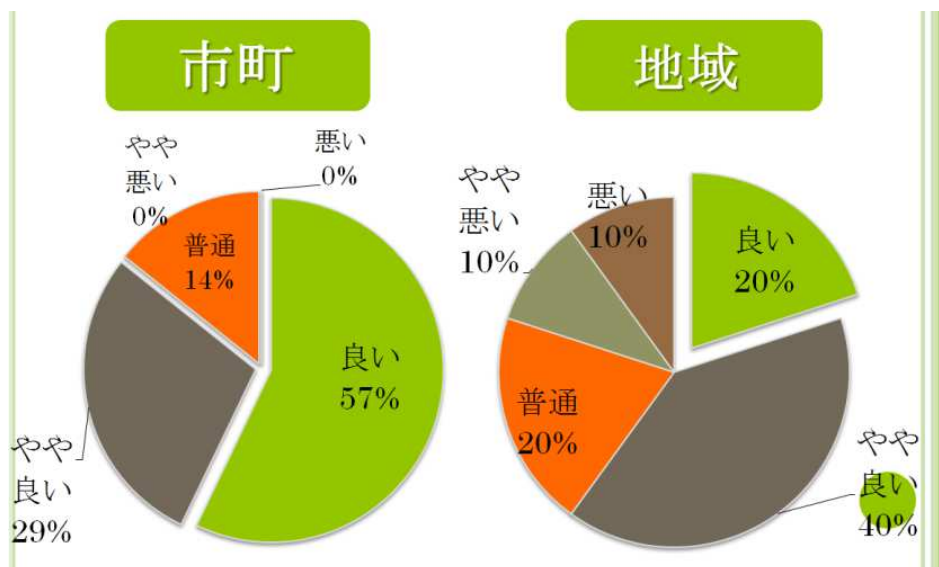


図9 体験学習における地域・市町・大学等の連携に関する評価

体験学習の全体的評価

16. 地(地)の拠点整備事業の大学と地域の連携における体験学習への取り組みの全体的評価については、大学と市町・地域の連携は良いという評価が多い(図6)。市町・地域の両方の意見にあるように、さらに時間を確保して地域課題解決に至る仕組みづくりと連携が重要になると思われる。

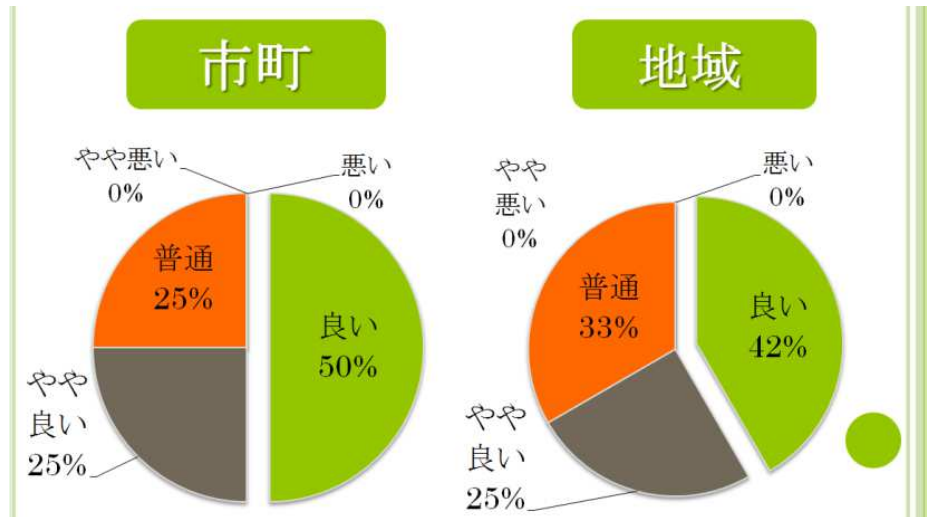


図10 大学と地域の連携における体験学習への取り組みの全体的評価

次年度以降の体験学習・地域貢献活動の受け入れ

17. 今回の一年生の体験学習回数については、増やしたいという意見と本年度程度で良いという意見に分かれた(図8)。今後は、各市町や地域の考えを聞きながら、できる限り柔軟な学習プログラムにすることが必要であると思われる。

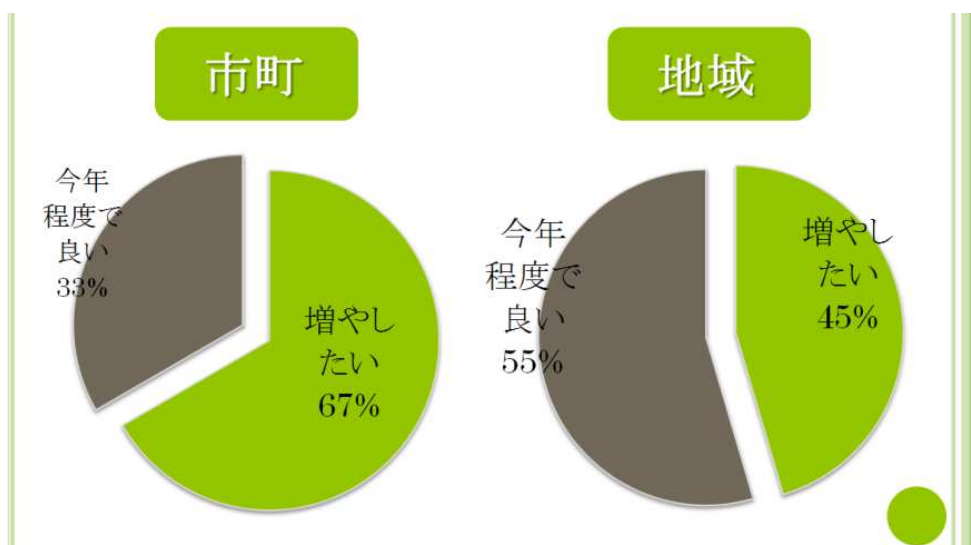


図11 今回の一年生の体験学習回数について

次年度以降の体験学習の実施地域

18. 連携市町内での実施地域については、市町・地域とも本年度の地域を継続したいという意見であった(図12)。この考えを十分に踏まえながら次年度の計画につなげるべきだと考えられる。

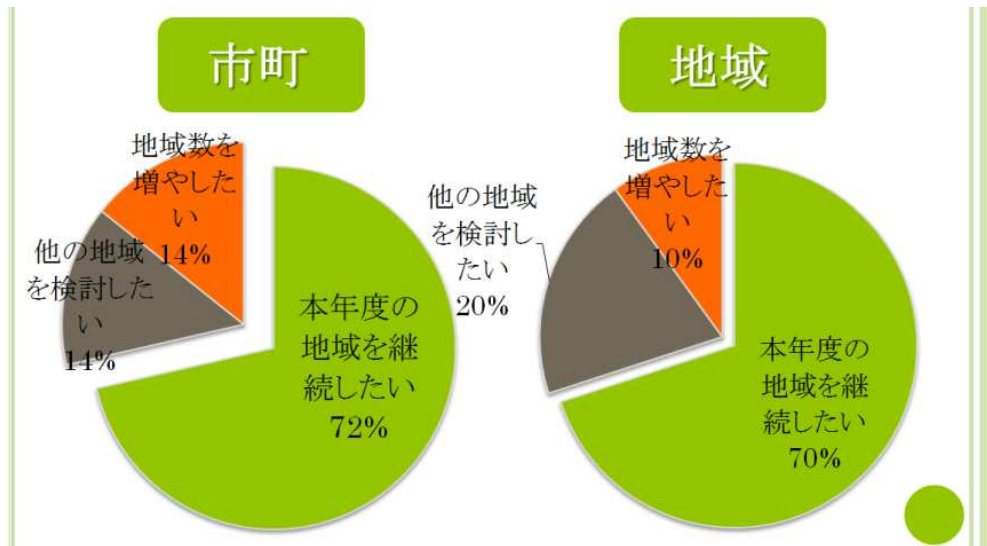


図12 連携市町内での実施地域について

体験学習を通じた大学連携の評価

19. 体験学習の実施を通じて、大学との連携が強くなったかについては、地域の方々により強く連携を感じてもらったと思われる一方、大学との連携が常日頃行われている市町に対しては地(知)の拠点としてのより強い連携を進めていくことが重要であると思われる(図13)。

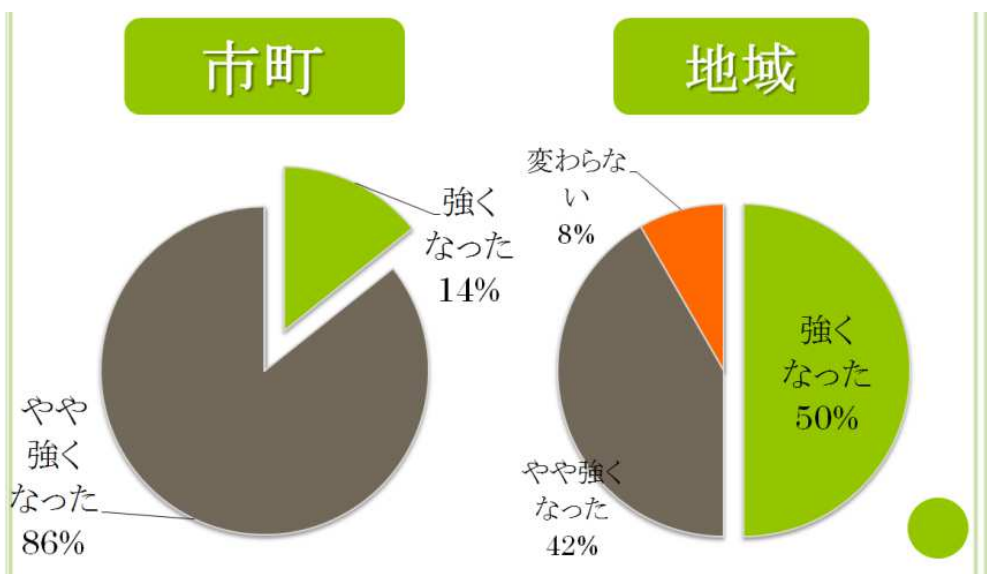


図13 体験学習の実施を通じて、大学との連携が強くなったか

広島大学との今後の連携

20. 広島大学(生物生産学部・生物圏科学研究科)との今後(将来)の連携については、市町・地域とも、強化していきたいとの考えである。参考資料のアンケート各項目への意見にあるように、具体的な人材育成や商品開発による地域活性化が強く求められている。

広島大学と連携した地域課題への対応

21. 広島大学と連携して特に取組みたい課題や急いで解決したい問題については、中山間地域島しょ部の諸課題の解決を喫緊かつ積極的に求められていることが明らかになった。地の拠点活動の必要性を再認識するとともに、できる限り地域ニーズ応じた貢献ができるような活動に取り組んでいくことが重要だと考えられる。アンケートでは、受入れ地域・自治体から多様な意見・助言をいただいた。今後学生の意欲が一層高まる体験やより深い理解につながるメニュー検討が必要である。

II 地(知)の拠点円卓フォーラムでの議論

広島大学コーディネーターの地域への呼びかけ

1. 地(知)の拠点円卓フォーラムでは、コーディネーターから上記のアンケート結果を説明した。加えて、地域や市町に対して学生や大学には厳しい言葉もいただきたいこと、地域の皆様のアイデアや提案を地の拠点活動につなげたいこと、広島大学や学生を広島の中山間地域島しょ部の活力剤として使っていただきたいこと、地の拠点の活動を地域や市町の広報誌で取り上げていただくなど皆様と連携した活動をPRしていただきたいことなどが述べられた。

地域から大学、学生へのエール

2. フォーラムの第1部では地域代表の3名から、大学との交流連携で地域の良さを見つめ直し自信を取り戻すことができたこと、学生に対しては地域に溶け込みながら地域の実情や課題を深く調べ理解し、自ら課題を見つけ出してその解決に向けて地域と一緒に行動して欲しいこと、このためには継続的な深い連携関係を作り上げたいという、暖かい意見をいただいた。

地域からの今回の取組みに対する評価と今後の期待

3. また、第2部では司会者から提示した三つの論点に対して、19名の方々から以下のような多様な意見をいただいた。

4. 第1の論点である地域の学生受入に対する意見では、継続的取り組みと連携、活動の深化、活動の強化・充実、多様な活動への期待、地域貢献活動の強化、学生への歓迎の意思、多面的な価値観を持つことの重要性などが述べられた。

5. 第2の論点である中山間地域・島しょ部領域対策の活動に対する評価では、継続的取り組みを重視した大学の活動の評価、目標と限界を共有し学生の活動につなぐ仕組みへの大学の評価、新たな世代育成や事業化の連携につなぐ仕組みへの評価、継続的な地域課題対応と人材育成につなぐ仕組みへの評価、体験メニューの一層の検討と評価、人材の育成・情報の発信・地域課題発見につなぐ仕組みへの評価など、大学への高い期待と評価が示された。

6. 第3の論点とした地域活性化に向けて広島大学にどのような役割を期待するかでは、学生の自律的な企画・提案の取り組みへの期待、地域課題に対する学生の観察・意見や体系的体験作業の仕組みへの期待、グリーンツーリズムなど地域全体の活性化への期待、販売など出口を意識した継続的・体系的体験作業への期待、地域が若い人材の活動拠点になることへの期待、地域に触れながら地域課題の発見につなげることへの期待が示された。

7. また、県からは地(知)の拠点は将来を担う人材を育成する絶好の機会であり。県も中山間地域の人材育成等の施策の強化を行っているとの力強い発言が行われた。

8. 詳細は、「地(知)の拠点円卓フォーラム中山間地域・島しょ部と広島大学の概要」などをご覧いただきたい。

地域の期待を強く認識し、次年度へ

9. 地域や市町からは、26年度の地(知)の拠点の仕組みの改善を通じて、地域が若い人材の活動拠点になること、継続的取り組みを重視した大学の活動と深化、人材の育成・情報の発信・地域課題発見につなぐ体系的な地(知)の拠点のシステム、新たな世代育成や事業化につなぐ仕組みづくりなどの重要性が示されたと捉えられる。広島大学(中山間地域・島しょ部領域)としては、学生の自律的な企画・提案の取り組みを醸成しながら、地域からの大きな期待に応えられるよう活動を行っていかねばならないことを強く認識する結果となった。

参考 アンケート各項目への意見

1) 地の拠点整備事業体験学習(フィールドワーク)の評価

①大学の事前打ち合わせの内容や情報、実施方法について

【市町】良かった点

- ・大学との連携が良く取れていた。
- ・体験学習の目的等がはっきりしており、資料も分かりやすかった。
- ・きめ細やかな対応だった。

【地域】良かった点

- ・きちっとされていてよかった。
- ・担当教員と事前に話ができ、資料準備等ができた点。
- ・コーディネーターの役割
- ・打合せが十分できていた。
- ・十分丁寧だった。
- ・事前に内容が把握できる点。
- ・随時詳しい連絡があった点。

【地域】改善が必要な点

- ・事前の打合せの時間が欲しかった。
- ・地区内を取りまとめられるような方法はないか。
- ・大学の様子が分からないので何とも言えない。

- ・事前に内容を聞かせてほしかった。
-

② 体験学習の実施時期(6月)について

【市町】良かった点

・農業体験において、収穫までにやる作業を一通り体験してもらえたので、時期が良かったと思う。

- ・農繁期に体験学習ができてよかった。
- ・受入しやすい時期でよかった。

【市町】改善が必要な点

・実施が梅雨時期なので、外での作業が限られるのではないかな。
・実施時期が、農業には不適切では。
・授業内容によっては、雨天時の授業の延期・内容変更等の検討が必要だったのではないかな。

【地域】良かった点

- ・農園での作業体験がしやすい時期だった。
- ・田植時期と重なる時期でよかった。
- ・涼しい時期でよかった。
- ・うまく互いに時間が合ったのでよかった。
- ・海藻の種類が豊富な時期だった点。
- ・時間を守る。

【地域】改善が必要な点

- ・地区内の都合だけで引受けしたので、もう少し検討する必要がある。
 - ・当方の場合、収穫時期である11月～2月のほうがよいと思う。
 - ・学生の目標がしっかり定まった後でもよいのでは。
 - ・作物にとって1番良い時期がよい。
 - ・調整するため、事前に打合せをしてから日程を決めるべきでは。
-

③ 授業を受けた学生の反応や態度について

【市町】良かった点

- ・熱心な学生は自分で行動を起こしていた。
- ・学生は真面目に行動していた。
- ・学生が素直だった。
- ・学生さんから多くの意見を頂いた。
- ・参加者の学生は皆自主的に行動していた。

【市町】改善が必要な点

- ・学生の積極性が足りないように感じた。
- ・興味がない学生への関心を深めていくこと。

【地域】良かった点

- ・農作業が好きな学生はたいへん積極的だった。
- ・真面目に取り組む姿勢がみられた。

- ・質問・メモを取る等積極的な姿勢がみられた。
- ・海上で話を聞いてくれた。
- ・質問も多く、この地域の農業に対する関心の高さがよくわかった。
- ・アイス作りについては、特に男子学生が積極的に作業を行っていた。
- ・こちらの話をよく聞いており、説明したことも十分理解できた。
- ・初めて体験する人は熱心でよかった。
- ・真面目に動いてくれた。

【地域】改善が必要な点

- ・やる気のあるところが伝わってこない、元気がない。
- ・学生個人の性格が分からないので何とも言えない。
- ・もう少し活発な行動・発言があった方がよかった。
- ・体験学習では、もう少し本気で体験してほしい。
- ・なかには仕方なく受けている学生もいた。

⑤授業実施に要する貴地域の業務量について

【市町】良かった点

- ・今回の業務を実施するにあたって必要な業務は、新人職員の研修にもなってよかった。
- ・日程調整等を、受入者と大学で直接行っていただけた点がよかった。
- ・業務量が少なくてよかった。

【地域】良かった点

- ・チャーターバスでの移動。
- ・10人の作業量は目に見えてわかる。
- ・現場担当者に意欲があった、勉強になったと思う。
- ・説明する時間もとれた。
- ・当方の組織があるところ(組織対応が出来る)。

【地域】改善が必要な点

- ・体験の時は時間が短すぎる。
- ・体験用の準備のため、できれば補助があるとよい。
- ・もっと地域参加者を増やしたい。

2) 地(地)の拠点整備事業の大学と地域の連携における体験学習の取り組みに対する全体的評価について

【市町】特に良かった点

- ・地域を知ってもらえた点。
- ・発表を聞き、学生が地域に対して興味を持ってくれたことが分かった点。
- ・地域課題の再確認につながり、また学生に町の現状を知ってもらえた点。
- ・実践(体験)は何事にも勝る。
- ・特に改善が必要な点
- ・時間の確保。
- ・地域の問題解決までには至っていない点。

【地域】特に良かった点

- ・地域と仲良く催しができた。
- ・刺激を与えてもらった。
- ・まずは現地の農業の実情と地域性を見てもらえた。
- ・時間内にできた。
- ・学生と地域の連携が図れた。

【地域】特に改善が必要な点

- ・地域のイベントに積極的に参加してほしい。
 - ・成果が見えにくい、発表会に行けばよかった。
 - ・学生(若者)からの提言の機会を設ける。
 - ・時間が足りない、体験としては不足。
 - ・もう少し輪が広がってほしい。
 - ・地区内の協力度が低い。
-

3) 地(地)の拠点整備事業の体験学習における地域・市町・大学等の連携について

【市町】良かった点

- ・新人職員の研修にもなった点。
- ・連携がとれていたため流れはよかった。
- ・いろいろとご配慮いただきありがとうございます。
- ・コーディネーターの役割がよかった。

【地域】良かった点

- ・一緒に物作り・祭りができた点。
- ・大学の目指すところが理解できた点。
- ・大学と農園・町との繋がりが深まる。
- ・大学が身近な存在になってよかった。

【地域】改善が必要な点

- ・我々自身大学のことがよく理解できていない。
 - ・行政との連携は時間不足でありできていない。
 - ・連携する上での自治体の役割を明確にしてほしい。
 - ・連携は早くからできるとさらに良い。
 - ・目的をしっかりとらせてほしい。
-

5) 体験学習の実施を通じて、大学との連携が強くなったかについて

【市町】強くなった点

- ・大学の取組が良く理解できた点。
- ・授業の一環として位置付けられた点。
- ・農漁業の現状を知ってもらえた点。
- ・ともに在り方を本心で協議し合えた点。

【地域】強くなった点

- ・地域との行事に参加

- ・学生が初めて島に来た。
 - ・地域を知ってもらった。
 - ・生産から販売まで一緒に考えたい。
 - ・町レベルから民間レベルになった。
 - ・大学が地元を知ってくださったこと。
 - ・当社としては、大学祭等へ参加させていただくことが楽しくなった。
-

6) 広島大学(生物圏科学研究科)との今後(将来)の連携について

【市町】強化したい点

- ・田舎では専門性を有する人材が不足しているため、知恵をお借りしたい。
- ・商品開発、農業体験、メニュー作り
- ・農業・農村地域の課題
- ・具体的な地域課題への取組など

【地域】強化したい点

- ・農場での技術開発・加工品開発に協力してもらいたい。
 - ・学生の反応や感想を聞きたい。
 - ・農業・農村の課題や問題を取り上げ、共同開発ができればよい。
 - ・水質問題
 - ・地域との繋がり、食の本当の大切さを知ってもらいたい。
 - ・先生(学生含む)と1回でも多く対面して話し合う。
 - ・1次産業～6次産業に繋げたい。
-

7) 今後の体験学習に対するご提案や改善のご意見について

【市町】

- 天候によって内容が左右されることが懸念される。
- 学生の意欲が高まる内容にしたいと考えています。学生の皆さんが提案してやってみたい作業等考えていただくのもよいのかな、と思います。
- 体験は時間の割にメニューが多すぎて、それぞれがやや薄い中身となったのでは。
- 地域課題の解決に向けては、2年生・3年生と内容をステップアップして行く必要がある。
- 同じ大学で複数回の実施であれば、もう少し深い現実的な内容にしていくことも可能。
- 受け入れ地域によっては、自治体への負担も大きくなる場合があるので、事前によく協議したうえで進めていただきたい。

【地域】

- せっかく田舎に来られたなら、一泊してその地域を体で感じて帰られてもよいのでは？
- やる気がみえない学生もいたようです。
- 地域の伝統・文化に触れることができればなおよいのでは。
- 体験学習は非常に良いと思います。いろいろなことを体験し、農業を理解してほしい。できれば播種から収穫までの体験があれば一番良いと思います。
- 人間の子供の第一声は、親の物まねからです。体験がいかに大切か、人から聞くだけでは(意味は)皆無に等しいです。

- 学生の能動的な参加姿勢を期待します。
 - 講義の時間が短く、概要の説明も十分できなかった。
-

8) 広島大学と連携して特に取組みたい課題・急いで解決したい問題について

【市町】

●本町は著しい過疎による様々な課題が浮き彫りになっています。農地の荒廃等を防ぐため、様々な取組を実施しています。たとえば、産品化や流通・手法等、アイデアを出していただき、ともに活動するといったことができないでしょうか。

- 農業・漁業における担い手の確保
- 道の駅を中心とした、地域の活性化や魅力づくり等
- 漁村の活性化

【地域】

●農業に関心を持ってもらいたい、また、レモンの長期保存方法等

●対面したとき言葉で伝えたい。(内容が多面で書けない)

●海藻の養殖の可能性と課題(採算ライン)

●2次産業、3次産業を考えていただきたい。

●地域での体験学習を通じ、今後、この町で休んで、農業に取組み、ここで暮らしたいといった心を持ってくれる学生が来てくれればと思います。

- 6次産業ネットワークが行う民泊事業に対する学生の意見を聞きたい。
- 作業毎のマニュアル作り、教科書作り、DVD映像での教本
- 中山間地域における畦畔の草刈対策、高齢化と多雨で草刈・除草が課題
- 鳥獣害対策や山林の有効活用等
- 川の藻と水質について、調査・検証したい。